

施工方法 (ペーストタイプ)

プラスターボード

※クロスを剥がしたプラスターボードは、14ページをご覧ください。
コーナー定木を使用する場合は20ページの手順に従って施工してください(下塗りが必要)。

珪藻土壁材〈エコ・クィーン〉は弾力性がありません。施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

〈PS〉はこちら→

1 石こう部分にシーラー塗布

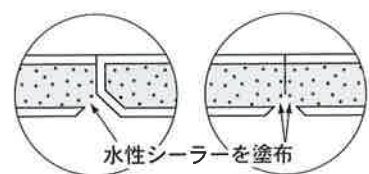


シーラー塗り忘れは、クラック防止効果を低下させますので、ご注意ください。

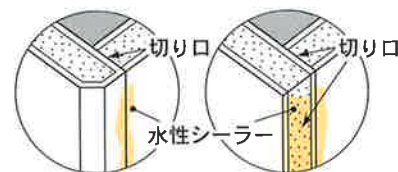
ボードが裁断されて、中の石こうが見えているジョイント部やコーナー部に水性シーラーを塗って吸水を抑えてください。

吸水抑えが不十分だと、色ムラの原因になります。

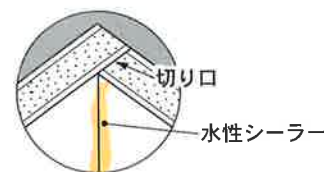
ボード面に墨打ちの線や水性ペンなどによる書きこみがある場合は、濡れ雑巾で拭き取ってください。仕上げ面に出きます。



水性シーラーを塗布
ジョイント部



出隅



入隅

コーナー定木を使う場合は20ページ参照

2 ビス穴凹み埋め、目地埋め

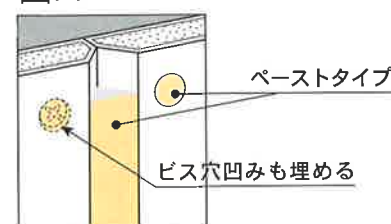


2.余分な材料をしごき取る
1.壁材を埋め込んで

すべてのビス穴凹みとボードのジョイント部のV字溝を〈ペーストタイプ〉で埋め、ボード面と平滑になるよう余分な材料をしごき取ってください。(図A参照)
大きなすき間や凹みがある場合も、同様に埋めておきます。

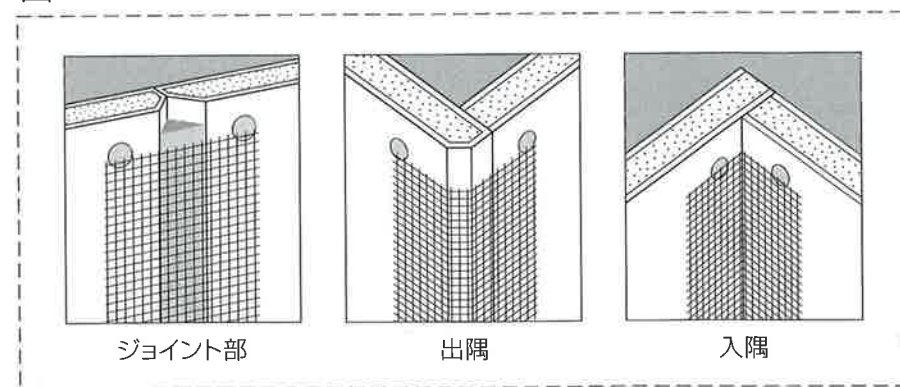
市販のパテ材は使用しないでください。色ムラの原因になります。

図A



ペーストタイプ
ビス穴凹みも埋める

図C



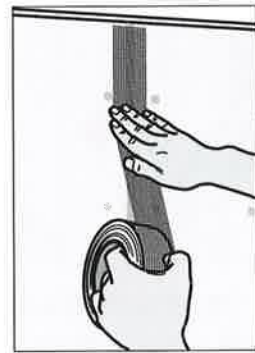
ジョイント部

出隅

入隅

〈PS〉はこちら→

3 ファイバーテープ貼り

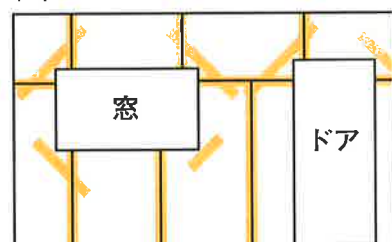


ファイバーテープはのり付きのものをご使用ください。

ボードの継ぎ目(ジョイント部・出隅・入隅)、および、開口部(窓・ドア)の角にファイバーテープを貼ってください。(図B・C参照)

ファイバーテープは、よじれたり浮いたりしないようしっかりと密着させてください。

図B



開口部の角にも貼って補強

4 ファイバーテープを塗りつぶす

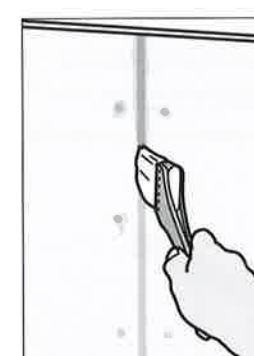


2.余分な材料をしごき取る
1.壁材を塗りつけて

ファイバーテープを貼った部分を〈ペーストタイプ〉でしごき塗りをしてファイバーテープの目を塗りつぶしてください。

余分な材料はしっかりしごき取り、ボード面と段差がないようにしてください。

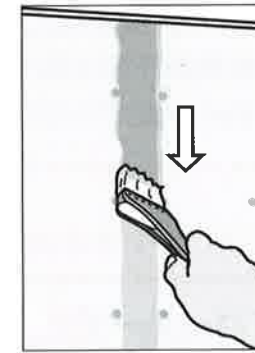
3 吸水抑え



左記2で埋めた材料が乾いてから、その部分に水性シーラーを塗り、吸水を抑えてください(色ムラ防止)。
ビス穴部分にもシーラーを塗っておきます。

乾燥

5 吸水抑え

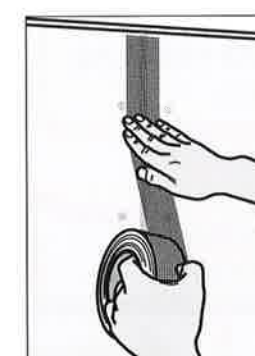


左記4でしごき塗りした部分に水性シーラーを塗って吸水を抑えてください。ビス穴部分にもシーラーを塗っておきます。

吸水抑えをしておかないと、色変わります。

乾燥

4 ファイバーテープ貼り



ファイバーテープはのり付きのものをご使用ください。

ボードの継ぎ目(ジョイント部・出隅・入隅)、および、開口部(窓・ドア)の角にファイバーテープを貼ってください。(左ページ図B・C参照)

ファイバーテープは、よじれたり浮いたりしないようしっかりと密着させてください。

乾燥

6 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。
(標準施工厚:1.5mm)

仕上げ塗りの要領は22ページ

「下塗り+仕上げ塗り」でもOK

ここでは下塗りを省いた施工手順を紹介していますが、下塗材〈NGU〉で全面を下塗りをし、下塗り乾燥後にペーストタイプで仕上げをいただいてもかまいません。その場合の手順は8~9ページをご覧ください。



注意

- 仕上げ塗り完了後、4~5日間は、室内が多湿状況にならないよう換気を心がけてください。乾燥までに多湿状況がつづくとき色ムラが起こる場合があります。
- 仕上材の塗り厚が薄すぎた場合、結露防止等の機能が落ちるだけでなく、硬化不良(ドライアウト)を起こして粉っぽい仕上がりになることがありますので、ご注意ください。

3 吸水抑え

乾燥

4 ファイバーテープ貼り

5 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。
(標準施工厚:1.5mm)

仕上げ塗りの要領は22ページ

「下塗り+仕上げ塗り」でもOK

ここでは下塗りを省いた施工手順を紹介していますが、下塗材〈NGU〉で全面を下塗りをし、下塗り乾燥後にペーストタイプで仕上げをいただいてもかまいません。その場合の手順は8~9ページをご覧ください。